

連珠っておもしろい

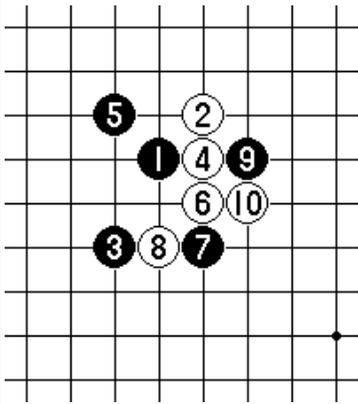
九段 河村典彦

● 第115回

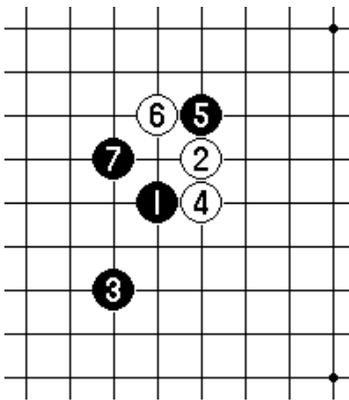
■ 名月三題打ち

現在挑戦手合いが進行中だが、第1局では、名月新月共通が出現した。名月新月三題は昔からの課題だが、最近の局面も進化しているようだ。今回はその推移を見ていこう。(便宜上名月からのスタートとする)

まずが、白4に対して黒5はこちらに打つのが一般的であった。代表的な進行が白10までだが、若干白有利というのが定説だった。

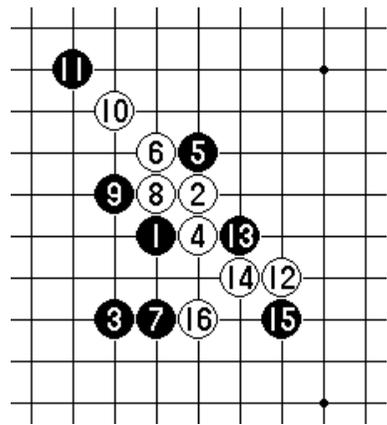


これでは黒が不満として、譜の黒5が研究されていたというのはまあ当然だろう。対して白6も黒3から離れた場所を組み立てるといって観点からすれば妥当の一手だ。ただ、近年黒7という手が出てきたのが昔と違う所だ。



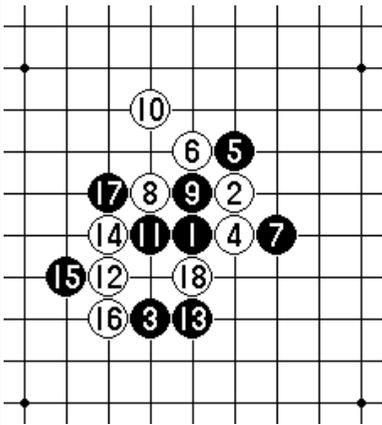
黒7は名月での一つの急所なのだが、このタイミングで打つというのは盲点だった。現代連珠は常に速攻を目指していると感じているが、相手の好点をつぶしながら自分だけ好形を組むというのも現代らしい。例えばここで黒7と黒5での定石を打つと、白6の

石が働いて、簡単に白勝ちとなる。

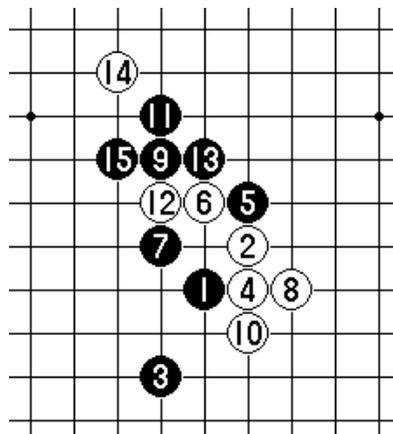


かように手順というのが大事なのだが、黒7も急所なので覚えておいて損はない好点だ。

ところで、一時期打たれた黒7の方は、以下例え

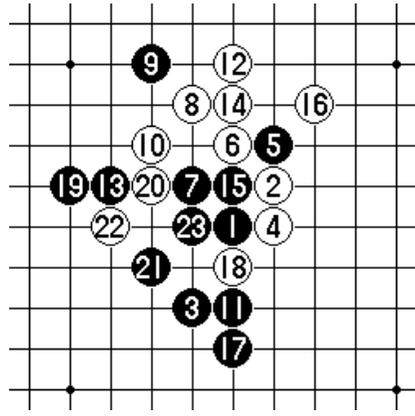


白18までの展開となってこれも黒があまりよくないと考えられているようだ。なので本譜の黒7が打たれたのだと思う。



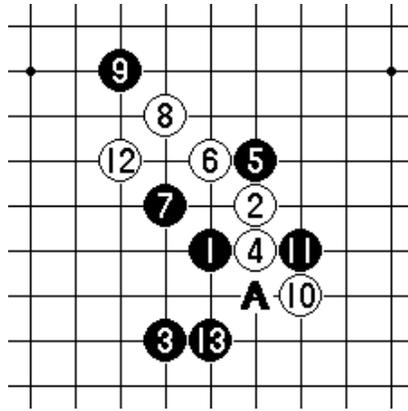
さて、黒7と打たれて真っ先に考えることは白8、10でけん制できないかどうかが、11と長連筋を避けるように打てば、黒13、15と連続して引くことができるので、以下黒勝ちになる。高段者であればこの辺りは問題なく読めるだろう。白は14で反対に止めた時に四迫いが残らないところの組み立ては打てない。こういうのは序盤のけん制が

成立するかどうかでよく出現するので覚えておきたい。となると白は8と逆に引くのが最善の一手ということになる。



黒9を反対は白10と打てば勝てるので、黒9はやむを得ない。ここで普通は白10と打つのだが、ここで打つとすかさず黒11とけん制してくる。対して白12で勝ちのように見えるが、黒17から逆転の四迫いがある（このために黒11と打っていることになる）。というところで、白も勢力を費やして下辺の黒模様を

止めに行くことになる。いや、こういう連珠が現代と研究しておかないと追いつかない。

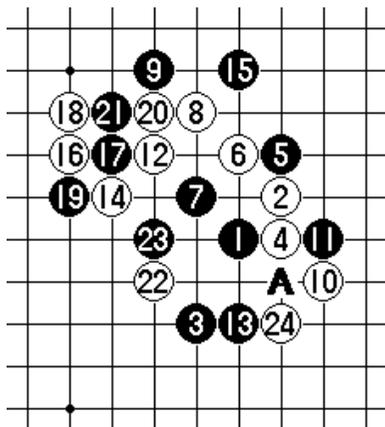


本譜の進行に戻るが、白12と打つ前に白10と打つたのは、黒12と引かれるのを防ぐのはもちろんだが、左上に連を残したのが狙いでもある。同じようでも白Aだとまた意味が違ってくる。おそらく白10でAと打つても一局なのだが、白10はより局面を複雑化させているという意味があります。私の方がよく研究しています

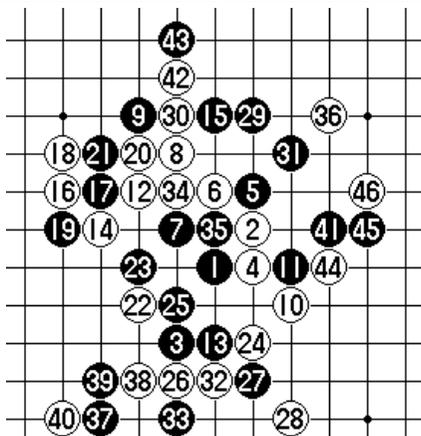
よ」と主張しているのかもしれない。

ただ、ここで黒13と打つたのもすごい手だ。「こつちもわかってますよ」と言わんばかりである。ここまでは二人の会話が聞こえてくるようだ。楽しいだろうな」と感じた次第でもある。

白14からの処理はこれが最善かどうかはわからないが、後の展開を見ると悪くはないようだ。白24まで進んだ所で私は初めて局面を見たのだが、黒25は当然Aと思っていた。ところが実際にはそれも外されることになる。



黒25と打ったので「これは黒勝てない流れか？」と思っただが、黒29から31が結構厳しい攻めだった。白32の意図はわからなかったが、黒41と打たれた時に白42、44と四ノビをしてから白46と止める手がほぼ絶対だったので、それを見越して引いたのか、と後で納得した。やはり対局者が一番読んでいる。



中村名人の体調が戻らなければ当面挑戦手合いはこの2人で行われるだろう、と感じさせた一局でもあった。